

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

私達を助けてくれる税金

八代市立第二中学校

三年 豊田 礼

私は、早産で超低出生体重児として生まれました。そのときにかかったお金は入院費などで約二十万を超えたそうです。とても払えるような金額ではありません。なので、両親はその金額にがくぜんとし、きちんと払えるのか、不安だったそうです。病院の方から、そのお金を国や市が負担し、補助してくれる制度があることを聞き、両親は心の底から安心したそうです。その制度のおかげで、私は無事に退院でき、家計が火の車になることなく、両親は少しのお金を払うだけで済んだそうです。そういった経緯もあり、両親はよく、

「将来はきちんと働いて、税金をしっかりと納めなさい。」

と言います。しかし、小学生だった私は、当然早産で生まれたことも、約二十万円という大金がかかったこともまったく知らず、いつも「なぜ？」と心の中で首をかしげ、疑問に思っていました。ある日、なぜ税金を払わなくてはいけないのかと両親に聞くと、

「あなたは、税金のおかげで助かったんだ。私達が税金を納めていたから、制度を受けることができたし、二十万という金額を自己負担することもなかったんだよ。」

と言われ、私は税金を納めることの大切さを初めて知りました。普通、いきなり「二十万円払ってください。」と言われても、払うことはできません。私は初めて、今、私達が何なく自由なく過ごしているのは、全て税金のおかげであることを知りました。私はそれまで、「税金は、何に使われているのか分からない」と思っていたけれど、税金はきちんと私達のために使われていることを知り、そんなことを思っていた自分がとても恥ずかしくなりました。

私達の生活には、色々なものが税金によって賄われているものが多くあります。例えば教育費。教科書はもちろん、学校の校舎の建設、机やイスなどの備品などにも税金が使われています。他にも、医療費、消防や警察の活動、家庭などから出る、ゴミの回収やその処理、道路や住宅の整備など、日常生活の至る所に使われており、国の収入は、税金が約六割を占めています。ですから、私達の暮らしは税金のよって成り立っていると一言でも過言ではありません。税金を納めなければ、必要な保障が受けられず、全て自己負担になるかもしれません。

改めて、税金を納めることの大切さを認識することができました。コロナ禍で給付金を騙し取ったり、脱税したりする人もいますが、それは、誰かが納めた大切な税金であることわかっただけの思いだと思います。私も将来、成人し、税金を納める立場になります。私達の生活が税金のおかげであることを忘れず、自分が支える立場になっていくことを自覚し、必要な人が支援を安心して受けられるように、税金をしっかりと納めたいと思います。